令和５年度第２回日本スポーツ少年団常任委員会
議事録

日時:令和５年６月２日(金) 15時00分～16時25分
会場:JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 12階 JSPO大会議室「スタジアム」
※オンライン併用
出席者:泉本部長、遠藤副本部長、大西副本部長、生島、江渡、安倍、横井、宮﨑、延原、山﨑、永野、伊藤、富田、佐藤、望月、工藤、河内の各常任委員 計17名
＜委任＞萩原副本部長、園田、原、真砂、小山の常任委員 計５名
＜オブザーバー＞森岡専務理事
＜事務局＞菊地地域スポーツ推進部長、金谷課長(運営担当)、渡部課長(事業担当)、他少年団課課員11名

構成員の２分の１以上の出席【総数22名のうち出席22名(委任含む)】により会議成立。
(「日本スポーツ少年団設置規程」第18条第３項)
日本スポーツ少年団設置規程第18条第２項により、泉本部長を議長として議事に入った。

■議案

1. 令和５年度第１回日本スポーツ少年団委員総会の開催について

令和５年６月３日開催の第１回日本スポーツ少年団委員総会は、資料の次第案に基づき４点の議案、９点の報告事項とすることを諮り、これを承認。

2. 令和４年度日本スポーツ少年団活動報告及び決算について

令和４年度の活動報告および決算を諮り、いずれも原案のとおり承認。

なお、令和４年度の決算は、令和５年６月３日開催予定の第１回委員総会での審議を経て、令和５年６月８日開催予定の日本スポーツ協会(以下「JSPO」という。)理事会および令和５年６月23日開催予定のJSPO定時評議員会において、JSPO全体の決算として最終的な承認を得る予定であることを説明。

3. 令和６年度日本スポーツ少年団活動計画及び要望予算の編成について

令和６年度の活動計画および要望予算の編成について、各専門部会での検討を踏まえ取りまとめた活動計画案に基づき今後予算編成作業に入ることを諮り、これを承認。

また、今後当該作業の取り進めに際して、各補助元、助成元等との関係から、JSPO全体の中でスポーツ少年団に関係する予算や事業規模の調整が必要となる場合、事業内容の変更や新たな取組を行う必要が生じる場合があることから、これらの調整が必要になった際の対応については、本部長に一任とすることを併せて承認。

なお、各種調整や対応を行った場合は、その結果を反映させた活動計画案およびその活動計画案に基づく予算を、令和５年度開催予定の日本スポーツ少年団ブロック会議にて説明し、最終的には令和６年３月開催予定の常任委員会および委員総会に諮ることを説明。

＜質問・意見等＞

- 過去3年間実施してきているスポーツ少年団活性化事業が活動計画および予算に盛り込まれていないが、来年度はどうなるか。（延原委員）
- 担当部署としては来年度も継続していきたいと考えているが、現時点では具体的な調整が出来ていない状況である。今後の予算編成の中で強く要望していく。（事務局）
- 学校部活動改革に関して、地域では小学校と中学校の連携がなかなか進んでいない。その対応に予算立てする予定はあるか。（園田委員）
- 当協会では、部活動改革についての正しい情報を関係者・関係機関に提供し、地域の実情に応じて対応を取り進めていただくよう促していきたいと考えている。特に小学生の多くが卒業と同時に卒団している現状を変えていくため、各地の好事例等を皆様に共有していきたい。（事務局）

4. 日独スポーツ少年団国際交流協定書（2024-2027）の締結について

令和6年度（2024年度）から令和9年度（2027年度）の日独スポーツ少年団国際交流協定書の締結について、原案のとおり承認。

また、今後、ドイツスポーツユーゲントとの協議にあたり、ドイツ側で一部調整中となっているグループ編成および協定書の文言等に調整が必要となった場合の対応は、本部長と活動開発部会長に一任することを併せて承認。

【主な変更点】

- 日独スポーツ少年団同時交流の派遣団の規模を最大 100 名とし、グループ編成は日本団11グループ、ドイツ団12グループとする。
- 日独スポーツ少年団同時交流の派遣期間を14泊16日に短縮し、派遣時期を8月上旬～中旬とする。
- 事前準備時にオンラインツール等を活用し円滑な情報交換、共有に努める。
- 日独スポーツ少年団指導者交流は、派遣と受入を隔年で実施する。

5. 日独スポーツ少年団同時交流50周年式典における特別功労者の表彰について

本年で 50 周年を迎える日独スポーツ少年団同時交流において同交流の発展、運営等に特に貢献された者に対する表彰として、以下の方々を特別功労者として表彰することを諮り、これを承認。

(1)高橋 範子 氏

【理由】高橋氏は本交流事業の立ち上げに発起人の一人として携わり、事業運営の中心的な役割を長い期間努めた。まさに、本交流の産みの親といえる存在であり、その功績に感謝の意を表したい。

(2)通訳の皆様

【理由】本交流にご協力いただいた通訳の皆様は、言語の翻訳にとどまらず、円滑なコミュニケーションのサポートや、文化の橋渡し役として、子供たちの学びの深化に多大な貢献を果たした。50 回に及ぶ本交流は、通訳の皆様なくして成り立たなかったものであり、これまでご協力いただいた通訳の皆様へ、感謝の意を表したい。

＜質問・意見等＞

・ 通訳の皆様は受入通訳のみが対象か。（伊藤委員）
・ 受入通訳のみでなく、日本団帯同通訳も対象と考えている。（事務局）

6. 令和 5 年度日本スポーツ少年団顕彰について

日本スポーツ少年団顕彰要綱および同施行基準に基づき、推薦があった 30 都府県 59 市区町村のスポーツ少年団および 42 都道府県 118 名の登録者を表彰することを諮り、これを承認。

また、退任者に対する感謝状の贈呈は、従来同様、各都道府県スポーツ少年団本部長にその手続きを委任し、年度末の一括報告をもって取り進めることについて併せて承認。

7. 令和 5 年度生涯スポーツ功労者表彰の推薦について

文部科学大臣が表彰する生涯スポーツ功労者表彰の候補者として 5 道県 10 名をスポーツ庁に推薦することを諮り、これを承認。

ブロック	都道府県	氏名（敬称略）
北海道・東北	北海道	坂本　敬一
		藤原　照子
関東	千葉県	有山　髙臣
		有山　八重子
北信越・東海	新潟県	米山　俊司
		髙橋　正司
近畿・中国	島根県	福田　悟
		田部　学
四国・九州	佐賀県	伊東　健児
		飯盛　みゆき

8. 令和 5 年度社会教育功労者表彰の推薦について

文部科学大臣が表彰する社会教育功労者の候補者推薦については、同省の推薦基準および日本スポーツ少年団の推薦基準に基づき今後候補者選定を行い、基準に沿った候補者がいる場合は、該当者を文部科学省に推薦することとし、その手続きについて本部長に一任とすることを諮り、これを承認。

■報告事項

1. 令和 5 年度第 1 回日本スポーツ少年団常任委員会の議事録について

議長から資料のとおり議事録を作成したことを報告。

2. 日本スポーツ少年団第 11 次育成 5 か年計画（アクションプラン 2023-2027）の取り進めについて

アクションプラン 2023-2027 について、各専門部会において個別の所管施策の実施や検討に向けて必要に応じて協議しつつ、進捗状況を定期的に報告するとともに、全体的な施策の進捗支援・評価、複数の専門部会にまたがる各施策推進に向けた検討は新たに設置する「アクション

プラン実行ワーキンググループ」にて取り進めていくことを報告。

今後は施策進捗管理レポート(仮称)により年次ごとに各施策の取組予定・実績等の進捗評価を行い、アクションプラン 2023-2027 の着実な実行に向けて取り組んでいく。

3. 「JAPAN GAMES」について

JAPAN GAMES について、令和 5 年度第 1 回 JSPO 理事会において報告、了承された「JAPAN GAMES 基本構想」の内容を報告。

JAPAN GAMES は、国民スポーツ大会・全国スポーツ少年大会・日本スポーツマスターズの三大会のブランドを JAPAN GAMES として統一することにより相乗効果を発揮させ、人々がスポーツ大会や活動に求める新たな在り方を創造し、今まで以上にスポーツをオモシロクすることで、高い信頼と共感、人々の支持を獲得することを目指している。

JAPAN GAMES の大会イメージは、5 つの新たな視点に基づき、これまでスポーツに関わりのなかった方々も含め、スポーツに関心をもっていただくための取組をすることとしている。

JAPAN GAMES の基本方針で策定したタグラインとロゴに加え、5 つの新たな視点を JAPAN GAMES ブランドのビジョン・ミッションとして整理し、目指すべき社会像としてまとめた。

＜5 つの新たな視点＞

「みる」ことも、「ささえる」ことも	「JAPAN GAMES」では、スポーツの新たなオモシロさを見つけられる幅広いスポーツを体験。
人づくりも、地域を育むことも	「JAPAN GAMES」で、あなたの地元やふるさとの新たな魅力を発見。
地域に根差して、スポーツの文化の土台を担うことを	「JAPAN GAMES」では、あなたの地元やふるさとに新たなスポーツ文化の種を蒔くことが可能。
幅広い世代でスポーツが身近にある生涯を	「JAPAN GAMES」は、誰もが楽しめる大会、様々な楽しみ方を通じて、あなたのライフスタイルをもっと豊かに創造。
スポーツの可能性をもっと広く	「JAPAN GAMES」では、スポーツ DX による新たなエンターテインメントと郷土愛のあるスポーツホスピタリティを実現。

JAPAN GAMES ではブランド統合に関する取組として、JAPAN GAMES パーク、SNS への投稿、ビジュアルアプローチの 3 つを主な施策として考えている。

今後のスケジュールとしては、国民スポーツ大会委員会、日本スポーツマスターズ委員会、日本スポーツ少年団常任委員会のそれぞれ三つの委員会において、各大会の開催 1 年前を目途に、開催地実行委員会と協働で、具体的な取組をまとめた基本計画の策定に取り組むこととする。

あわせて、JAPAN GAMES が掲げる、“スポーツは、もっとオモシロイ。”を実際に体験・体感してもらう場として本年 3 月に実施した PR イベントについて報告。

PR イベントは JAPAN GAMES 有明パークとし、東京都有明にある野外広場にて、6 つのエリアを用意し、加盟競技団体をはじめ、国スポ開催予定県やオフィシャルパートナーなど多くの方々にご協力を得て新しいスポーツの楽しみ方を提案した。2 日間の実施予定としていたが、悪天候のため 2 日目は中止となった。

4. 「NO！スポハラ」活動について

JSPO では、日本オリンピック委員会等、5 団体と共同で、令和 5 年 4 月 25 日から、スポーツにおける暴力、暴言、ハラスメント等の不適切行為をなくすための新たな活動、「NO！スポハラ」活動を開始した。

「スポハラ」とは、スポーツ・ハラスメントを略した造語であり、スポーツの現場において暴力、暴言、ハラスメント、差別など安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為のことを意味する。

本活動は、JSPO のほか、JOC、日本パラスポーツ協会（JPSA）、日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟、大学スポーツ協会（UNIVAS）の 5 団体、計 6 団体が共同で取り組んでいく。

具体的な活動内容として、スポハラについて関心をもってもらう、知ってもらう、学んでもらう、防止に向けた行動ができるようになるために必要な情報発信やイベントを実施することとしている。

＜「NO！スポハラ」活動内容（令和 5 年度予定）＞

①スポハラをなくしていく呼びかけに関するイベント【情報発信系】

②スポハラの問題が起こっていることを自分事として捉えるためのイベント【参加型系】

③既存事業の活用

④広報・PR

＜質問・意見等＞

- 今年度から小学生バレーボール連盟の大会では、指導者がスポハラ等をしないという宣誓をしている。（工藤委員）
- 暴力行為等にどのように対処すべきかを子供たちに対しても教えていかなければならないと考える。（河内委員）

5. 専門部会およびプロジェクト等の報告について

各部会長または事務局から以下の通り報告。

＜指導育成部会＞

第 1 回（令和 5 年 5 月 18 日）

- スタートコーチ（スポーツ少年団）の復活登録について
  スタートコーチ（スポーツ少年団）資格の復活登録の審査要件を協議した。

＜広報普及部会＞

第 1 回（令和 5 年 5 月 16 日）

- スポーツ少年団事業概要動画の作製について
  今後作製予定となっている 3 編の動画に関して、スケジュールおよび内容を協議した。

＜活動開発部会＞

第 1 回（令和 5 年 5 月 18 日）

- 日独スポーツ少年団同時交流
  1）50 周年記念式典の準備状況について
  記念式典の準備状況を報告し、前回部会から引き続いて式典の内容を協議した。

2）2024 年以降の日独スポーツ少年団国際交流協定書について
2024 年以降の日独スポーツ少年団同時交流のパートナー編成表および日独スポーツ少年団指導者交流の実施形態を協議した。

・ 2023 年日独スポーツ少年団指導者交流について
新型コロナウイルスの 5 類移行に伴う日独の渡航条件を確認し、本年 10 月下旬からの実施に向け準備を進めるべく実施要項について審議した。

・ 全国スポーツ少年団競技別交流大会の在り方について
本年度末の方向性提示に向け、あらためてスケジュールを確認するとともに今後の論点や検討事項について整理した。

＜日本スポーツ少年団リーダー制度改定ワーキンググループ＞
第 1 回（令和 5 年 5 月 12 日）

・ 令和 5 年度のシニア・リーダースクール
4 年ぶりに対面で実施予定であるシニア・リーダースクールのプログラムや日程、課題、評価の取り扱いについて協議した。

・ 令和 5 年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
オンラインにて実施予定のリーダー連絡会の講義・ディスカッションのテーマや進行について協議した。

6. ブロック報告について

特になし。

7. その他

・ 令和 5 年度日本スポーツ少年団会議の開催日程

令和 5 年度の日本スポーツ少年団常任委員会および委員総会の会議日程を報告。

以上、16 時 25 分閉会。